

⑩実用新案公報

④公告 昭和44年(1969)7月3日

(全2頁)

1

④磁性体を有する前掛け枠付き眼鏡

①実 願 昭41-35917
②出 願 昭41(1966)4月20日
⑦考 案 者 小柳重政
鎌倉市由比ヶ浜町1の7の14
同 小柳重隆
東京都文京区高田老松町76
⑧出 願 人 株式会社金鳳堂
東京都中央区京橋2の1の3
代 表 者 小柳重政
代 理 人 弁理士 加藤格

図面の簡単な説明

図は本案磁性体を有する前掛け枠付き眼鏡を示すもので、第1図は眼鏡本体の斜視図、第2図は前掛けグラスを示す斜視図、第3図は眼鏡本体に前掛けグラスを組み合わせた実施態様を示す斜視図、第4図は部品の金具を示す斜視図、第5図は同じく側面図である。

考案の詳細な説明

この考案は眼鏡の本体に前掛けグラスを簡易な手段で着脱自在に取り付けられる眼鏡に係わるものである。

一般に使用している眼鏡の本体にサングラス、減光グラス等を着脱自在に取り付けることは従来行なわれている。しかしこれらは前掛け用グラスに眼鏡本体に取り付けるための枠体が具備してあるため、使用している眼鏡をその都度取りはずして該前掛け用グラスを眼鏡本体に着脱しなければならない。

本案は眼鏡本体の前面の眼鏡枠に具備した金具及び前掛けグラスに具備した磁性体によつてかかる点を是正して、簡易な手段によつて着脱し得る

2

ようにしたものである。

次に本案を図について説明すると、眼鏡本体1の眼鏡枠2、2'と耳掛け棒3、3'の支点即ち蝶番部4、4'の近くに、第4図及び第5図に示す金具5を設けるものであるが該金具5は凹状に成形されていて裏側8の適宜位置にボルト7が設けられ、又表側8はほぼ平らな形状をしている。そしてこれを蝶番部4、4'付近に着脱自在に取り付ける。又前掛けグラス9は第2図に示す如く眼鏡本体1に取り付けた前記の金具5に対向する位置即ちグラス枠12、12'の両側に板状の磁性体10、10'を具備しているものである。そして、かかる眼鏡本体と前掛けグラスとを組み合わせて使用する。

この考案は凹状の金具5の溝11を眼鏡本体1の眼鏡枠2、2'と耳掛け棒3、3'の蝶番部4、4'の近くに嵌設し、裏側のボルト7で止め付けかつ前掛けグラス9を、その磁性体10、10'の磁力によつて該金具5に磁着するものである。而して本案によれば眼鏡を使用している時、サングラス或いは減光グラス等の前掛けグラス9を随時眼鏡本体1に自在に取り付けたり取り外したりすることができるので頗る便利である。又、本案の金具5はボルト7によつて眼鏡本体1の眼鏡枠2、2'に取り付けてあるので取りはずしが簡単にできるものである。

実用新案登録請求の範囲

眼鏡本体1の眼鏡枠2、2'と耳掛け棒3、3'との蝶番部4、4'の近くに、裏側の適宜位置にボルト7を設けて着脱自在とした凹状の金具5を取り付け、該金具5の表側にグラス枠12、12'の両側に板状の磁性体10、10'を具備した前掛けグラス9を着脱自在に磁着するようにしたことを特徴とする前掛けグラス付き眼鏡。

図1

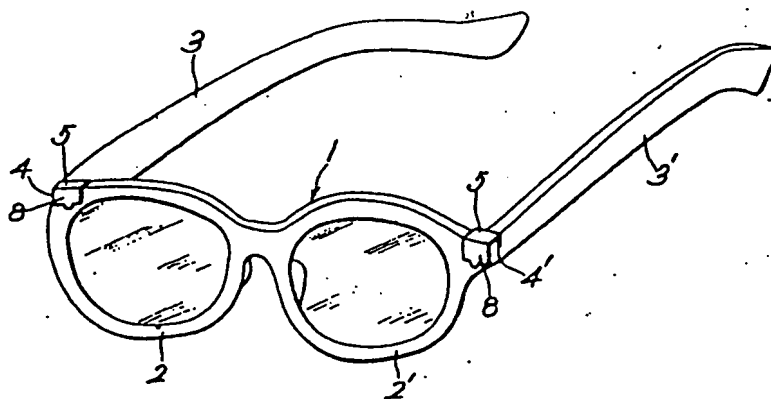


図2

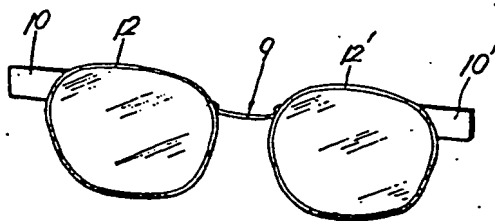


図3

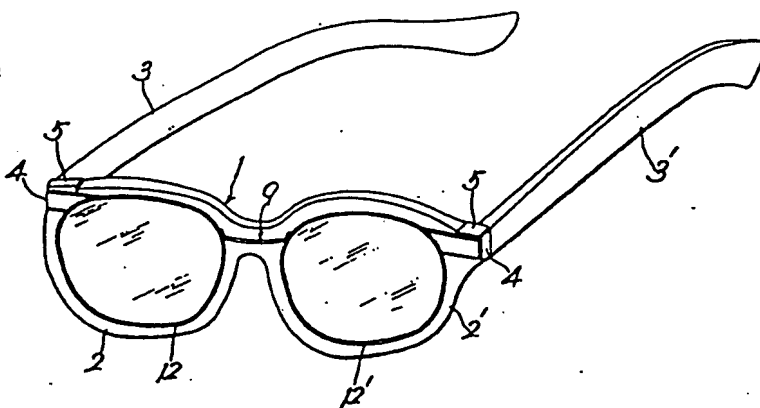


図4

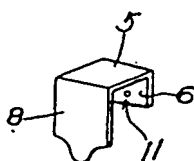


図5

